

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/04/01 ～2019/04/31 )

### 1. 勉学の状況

4月1日から本格的に大学の授業が始まりました。自分が所属している Philologie 学部の留学生は基本的に教授との口約束で履修登録することになっているのと、自分は留学前に卒業要件の単位をすべて取り終わっていて単位振替を考える必要がないため、とりあえずは面白そうだなと思った授業に出てみることにしました。一か月がたちようやく授業が定まってきたので、順に紹介します。

- **Vorlesung - Grundlagen der Phonetik in Deutsch als Fremd- und Zweitsprache**

これは講義形式で、ドイツ語学の中でも特に音声学を扱っています。すべてドイツ語ですが、非常にユーモアのある教授で表や画像を用いてわかりやすく説明してくれるので、今のところはほぼ理解できています。毎週行くのが楽しみな授業です。この講義は自分の所属学科外の科目ですが、留学生はどんな授業でも参加が許されているので取ることにしました。

- **Übung - Übersetzen und Dolmetschen**

日本学科の院生用の授業ですが、日本人留学生として参加させてもらっています。日本人 5人、ドイツ人 5人という少人数の授業で、課題で出されたドイツ語の記事をペアで話し合いながら日本語に訳していくというものです。先生は日本人の方でドイツ人の学生も日本語が堪能なので授業中は日本語で会話することが多いですが、それぞれの母語の語感を持ち合わせて翻訳していくという作業は、なかなか体験できないものです。

- **Vorlesung/Tutorium - Einführung in die Geschichte der neueren deutschsprachigen Literatur**

主に 17 世紀から現代までのドイツ語で書かれた文学を概観していくという講義で、Vorlesung (講義) と一緒に Tutorium (補習授業) もセットで受けています。日本ではあまり馴染みのないものですが、ドイツには Tutorium という授業があり、前のセメスターにその授業を修めた学生または院生が Dozent\*in (講師) となって、試験などに向けて補習を行ってくれるというものです。この文学入門の講義にはなんと留学生だけに特別に Tutorium が開講されており、毎週の講義に関する補習を行ってくれるので、ありがたく参加させてもらっています。参加者は 4, 5 人ほどなので、わからないことは気軽に質問できます。講義での教授の話すスピードが速く板書するのも精一杯ですが、この Tutorium をうまく利用してついていきたいです。

- **Vorlesung - Einführung in die ältere deutsche Literatur**

中世ドイツ文学の講義です。現代ドイツ語ではなく古高ドイツ語や中高ドイツ語で書かれた詩を読んでいくため、なかなか理解できません。テストを受けられる自信がないので、これは聴講

することに決めました。

● **Vorlesung - Einführung in die Kinder- und Jugendliteratur**

これは児童文学についての講義ですが、教授が体調不良のため実はまだ一度も開講されていません。そのため履修するかどうかはこれから決めていくことになります。

● **Aufbaukurs: Sprachpraxis Phonetik** (B2 レベル以上)

● **Aufbaukurs: Sprachpraxis Schreiben** (C1 レベル)

● **Aufbaukurs: Sprachpraxis Konversation** (C1 レベル)

3つまとめて書いたのは大学の正規の授業ではなく、留学生向けに開講されているドイツ語のクラスです。授業は大学から少し離れた Studienkolleg Sachsen というところで行われます。これは交換留学生やエラスムスの学生ならば無料で受けられるもので、先月の報告書で書いたクラス分けテストの点数によって、受講できる授業が変わってきます (B1 レベルから開講されているので、ライプツィヒ大学の応募条件に B1 レベル以上と書かれているのはそのためでもあると思います)。参加するには学期はじめの登録日にオンラインで登録する必要があります。履修したのは上から順に発音、作文、会話の授業です。発音の授業は楽しみながらドイツ語の発音の特性を知っていこうという内容で気楽に参加できるのですが、作文と会話の授業はやはり上級クラスということもあり、レベルが高いように感じます。作文の授業ではゼミや演習で課されるレポートの書き方をより実践的に学んでいます。会話の授業ではディスカッションで用いられるドイツ語表現を学ぶことのほか、プレゼンテーションの組み立て方や論理的な思考の筋道を知る、ということも扱っています。中間発表でデンマーク出身の留学生とペアを組んでプレゼンをすることになったのですが、誰かと協力して準備・発表するという経験はこれまであまりなかったので、うまくできるかどうか心配です。

聴講も含めると週に 8 回授業に出ていることになりますが、授業がない時間にも日本語を学んでいるドイツ人学生とタンデムをし、ドイツ語で話す練習をしています。日本でドイツ語を学んできたおかげで自分の言いたいことは大体言えるようにはなりましたが、アカデミックな話題になるとまだ難しいです。もちろんドイツ語の語彙力が乏しいことも原因の一つではあると思いますが、それよりも最近気になるのは、思考力の乏しさです。言いたいことが言えないのではなく、言うことが見つからない、要するに考える力が足りないためにアイデアが思い浮かばない、ということが自分の欠点だと思うようになりました。そのため今期はディスカッションが中心であるゼミへの参加はやめ、講義を多めに履修しています。タンデムやドイツ語会話の授業を通してそうした欠点を補えるようになることが今後の課題であり目標です。

## 2. 生活の状況

先月書いたビザですが、ようやくすべての書類を外国人局に出し、5月中には受け取れることになりました！先月の報告書を書いた後、自分の銀行口座はまだ普通の預金口座で、さらにそれを閉鎖 sperren する手続きが必要だとわかり、急いでその手続きを終わらせました。ただその銀

行窓口の人が容赦なく、行くたびに「予約してから来て」「お金が足りてないからまた来て」「手数料も必要だから振り込んでからまた来て」と言われ、もう顔を覚えられるぐらい何度も足を運ぶ羽目になりました。本当にこの国のシステムは複雑で、融通が利かないものだなあと感じます。あれほど入念に準備していたビザ申請にここまで時間がかかるとは予想しておらず…。さらに証明写真は背景が白でないとダメだから撮り直してと言われ、おかげでドイツの証明写真機の使い方をマスターしてしまいました（一回6ユーロ）。

そんなこんなで大変な事務手続きに追われた4月ですが、様々な出会いができた月でもありました。同じ寮に住んでいるドイツ人が一度夕食に誘ってくれたり、WILMAという団体が企画する小旅行で友達ができたり、日本に留学していたらしいロシア人留学生と仲良くなって一緒にコンサートを聴きに行ったりと、書きだしたらキリがないですが、どれもここに来ていなかったら出会うことのなかった人たちなんだなと思うと、留学を決心して良かったなと思います。特に日本学科の学生たちは、自分たち留学生と同じようにお互い友好的な関係を築きたいと思っているので、友達は作りやすいです。自分よりも前に留学しに来ていた日本人留学生から聞いて気づいたのですが、ドイツ人学生にも日本人と交流する際に少しハードルを感じ、遠慮がちになる人がいるみたいです。それはもっぱら言語と文化の違いによる心の壁だと思いますが、せっかくお互いの文化を学んでいるのだから、どちらかがその緊張の壁を壊して積極的になれば、より良い出会いができるのではないかと思います。

もう少し具体的な生活状況について書いておきます。はじめ5人共同のWGはどんなものかと心配していましたが、意外と同居人はみんなおとなしい？のであまりお互い干渉しません。たまにキッチンで顔を合わせてHalloと言葉を交わすくらいなので、夜うるさくて眠れない、勉強に集中できない、などといった問題はありません。むしろ優しく友好的な人が多く、この前に日本からの荷物が別の部屋に預けられていた時も、取りに行くまでそこに住んでいる学生がしっかりと保管してくれていました（ドイツでは在宅中であってもインターホンすら押さずに不在票が入られることがあり、そのうえ再配達制度も（ほぼ）ないので、寮の場合は特に同居人に預けられることが多いです）。ちなみに同居人は4人中3人がドイツ人なので大体いつもドイツ語で会話をします。洗濯機は1回2.30€で、乾燥機はまた別にお金がかかるので、いつも部屋干ししています。寮にはMusikübungsraum（音楽練習室）という部屋があるので、たまにそこで気分転換に日本から持ってきた楽器を吹いています。寮にはバーもあります。平日の昼夜は大学のMensa（学食）で済ませることがほとんどですが、土日は簡単に自炊しています。スーパーが近くにあり、中心街に行けばアジアショップで米や麺類、調味料なども手に入るので、食べ物にはあまり困りません。日本製のラップとにんにくチューブだけは大量に持って来るべきだったと思うくらいです。日用品はdmやTedi、MäcGeizのような店で安く買えるので（100円ショップほどではないけれど）、よく使っています。またライプツィヒからバスで30分ほど行くとIKEAがあり、食器などが非常に安く手に入ります。一度行ってみましたが、まあどこの国のIKEAも同じような雰囲気なんだなという感想です。

3月に比べ少しずつ暖かくなってきましたが、一日の気温差が激しく朝晩は5度以下にな

ることがしばしばで、まだ防寒着は必要です。

最後にまた少し写真を載せておきます。



G2 号館ほどの広さの Hörsaal(講義室)。文学入門の講義は人気でほぼ満席になります。



日本学科 Japanologie の学生との交流会。カラオケ機がありました。



ドイツ人の友達の好意で柔術の練習を体験させていただきました。

4月にイースター休暇があり大学が休みだったので、色々日帰り旅行をしました。  
順に Spreewald、Bautzen、Leipzig のマーケット

